

# 保育施設におけるオンライン研修の有効性に関する研究

永 野 典 詞・香 崎 智郁代

## Study on the effectiveness of online training in childcare facilities

NAGANO Tenji・KOUZAKI Chikayo

本研究の目的は、「保育施設におけるオンライン研修の有効性を明らかにすること」である。本研究は、2020年11月から2021年4月に実施した毎月1回（45分）計6回のオンライン研修参加者延べ73名のアンケート調査を基に研究をおこなった。その結果、オンライン研修の有効性である「学習の効果」は上述の理解度、満足度の高さからも「一定の効果がある」ことが明らかとなった。オンライン研修をより効果的に実行するために今後の課題として、「①気軽に参加できるオンライン研修」「②保育者が研修を受けたいと思える保育施設的环境作り」「③保育施設のオンライン研修の環境整備」の3点を指摘した。さらに、現状を踏まえ、それぞれの保育施設に親和性のある研修のあり方を考えていくことが必要であることを提案している。

### 1. はじめに

本研究の目的は、「保育施設におけるオンライン研修の有効性を明らかにすること」である。また、同時にオンライン研修の課題を明らかにして課題解決を提案したい。

本研究のベースとなっているのは、毎月1回実施している九州ルーテル学院大学付属黒髪乳児保育園（以下、「付属園」という。）の園内オンライン研修である。また、オンライン研修の利点を活かして県内保育施設（保育所7施設、幼保連携型認定こども園3施設）10施設へオンライン研修への参加を呼びかけ、参加できる時に、自由に参加できるような体制を整えている。

本研究は、2020年11月から2021年4月に実施した毎月1回（45分）計6回のオンライン研修を対象としている。この研修では、ビデオ会議システムのZoomミーティング<sup>1</sup>（以下、「Zoom」という。）を利用して実施した。本研究は、まず、「オンライン研修の実施内容」を報告し、次に、振り返りとして各回「googleフォームによる事後アンケート調査」を実施した。このアンケート調査結果を基に「保育者が考えるオンライン研修の有効性」について検討したい。

### 2. 背景と意義

#### 2.1. 保育施設の研修

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」という。）感染拡大の影響で保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園、幼稚園など（以下、「保育施設」という。）では、従来型の対面による保育士等キャリアアップ研修<sup>2</sup>や各種スキルアップ研修および保育施設内での園内研修などが中止や延期となっている。

保育の質の保証、専門性の保持については「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（昭和23年厚生省令第63号）」第7条の2第1項に示されているように、「児童福祉施設の職員は、常に自己研鑽に励み、法に定めるそれぞれの施設の目的を達成するために必要な知識及び技能の修得、維持及び向上に努めなければならない」とされている。また、同条第2項では、「児童福祉施設は、職員に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保しなければならない」と示されている。しかし、2020年3月以降、保育士の「保育の質や専門性」を担保するための各種研修が実質上ストップしている状況にある<sup>3</sup>。

2021年5月においてもCOVID-19の収束を見ない今、保育者は学びの機会を喪失している状況にある

といっても過言ではないだろう。そこで、現在、教育機関で積極的（試行段階ではあるだろうが）に取り組まれている、オンライン研修を保育施設で実践し、その有効性について明らかにしたい。また、別研究ではあるが保護者会および個人面談などについてもオンラインでの施行を試みている。この研究結果については別に報告する予定である。

なお、オンライン研修の意義は、第1に「保育者の学びを止めないことで、保育の質と専門性の向上に資する」ことである。教育界でも盛んに叫ばれている、「教育を止めない」は大切なテーマであり、「保育の質を担保する」ための「研修を止めない」ことを保育施設でも実践する。第2に「保育施設の研修の多様化への挑戦」である。対面でなければ学びの機会が無いと考えるのではなく、今できること、対面以外の研修のあり方を模索し、より良い研修のあり方を提案することは、研修の受け手である保育者自身の自己研鑽の意欲（モチベーションの維持）向上や自己成長につながる、同時に保育界の保育の専門性の向上を目指す上での社会的使命であると考えている。第3に「オンラインを利用した他施設の保育者とのコミュニケーションの機会を創出する」ことである。対面での研修は他施設の保育者との貴重なコミュニケーションの場でもある。互いに切磋琢磨すること、かつ、他の保育施設の利点を取り入れ保育実践に活かすことは重要な視点であり、この貴重な体験をオンライン研修で実践できないかと考えている。

## 2.2. オンライン研修

上述のように2020年3月から7月にかけて保育施設及び保育者の各種研修はほぼ中止、延期となっていた。その後、2020年8月以降、徐々にではあるがCOVID-19感染予防を徹底した上での対面研修が散見されるようになった。同時に、オンライン研修<sup>4</sup>も実施されるようになっていく。筆者も講師として、他県（札幌市、広島市、大竹市、鹿児島県など）で参加者50名～200名規模のZoomを用いたオンライン研修や事前録画によるオンデマンド（動画配信による）研修、保護者向けのZoomを用いたオンライン子育て研修を実施している。リアルタイムのオンライン研修（Zoomなど利用）の利点は顔が見える、コミュニケーションを図ることができる、質疑応答ができることなどであろう。オンデマンド（事前録画）

によるオンライン研修は、数多くの視聴者に向けて発信できること、後日、質問に丁寧な回答ができること、などがあるだろう。ただし、双方にメリット・デメリットがあることも事実である。以下、筆者の別研究での参加者の意見を示したい。

まず、メリットは「移動時間がない、職員が一緒に研修に参加できる、職員の共通理解ができる、など」である。デメリットは「人とのつながり交流が希薄、機器（パソコン（以下「PC」という。）、タブレット、スマートフォン（以下、「スマホ」という。）などの使い方など）の課題」である。これらは、オンライン研修のメリット、デメリットともいえる。

保育施設や保育者を対象としたオンライン研修は始まったばかりであり、保育施設の管理者（以下、「管理者」という。）や保育者にも戸惑いや不安感も多いと思う。また、管理者が研修をどのように捉え研修を実施するかは、OJT、OFF-JT、自己研鑽など研修のあり方にかかわらず大きな影響を与えられる。つまり、管理者が今できる研修、オンライン研修の有効性を理解しているか、また、否定的であるかによって、そこで働く保育者の研修の機会の確保ができるか、できないかに影響することもある。この点については、保育界全体で研修のあり方についても議論すべきではないだろうか。

また、保育者もこれまでの対面研修に固縮したり、PCやスマホなどの機器の操作やZoomなどシステムの使い方になじめないことなど、オンライン研修になじめないこともある。この問題を解決することも現時点での1つの課題であるといえる。

## 3. 調査の概要

### 3.1. 倫理的配慮

研修参加者には、本アンケート調査への協力は回答者の自由意思であり、同意が得られなくても何ら不利益を受ける事がないことを文書で伝えた。また、今回の調査目的以外には回答内容を使用しないこと、調査は無記名かつ、統計的に処理され、個人が特定されることはないことを文書で伝え回答をもってアンケート調査に同意いただいた、こととした。

### 3.2. 研修方法と内容

研修方法はZoomを利用したオンライン研修であ

る。付属園では、各クラスPCをZoomでつなぎ、それぞれのクラスで研修を受けてもらった。また、付属園以外では、職員室などに集合してPCやスマホをZoomにつなぎ研修に参加する形式をとった。なお、参加場所は自由としたが多くの場合は園内での参加であった。

さらに、研修は毎月1回で次の日程で実施した。第1回、2020年11月9日「保護者支援①」、第2回、12月7日「保護者支援②」、第3回、2021年1月12日「2021年『保育』に取り組む意識」、第4回、2月15日「自分(保育士)の役割と他者への期待」、第5回、3月17日「保育者として2021年(新年度)に向けて」、第6回、4月12日「保護者支援・家庭支援のあり方」について、毎回13時30分から14時15分の45分間で実施した(表1参照)。

なお、研修の内容は、付属園実習担当者(主任保育士)との話し合いの結果、基本として「保護者支援・子育て支援」、②年度変わりには「保育者としての心構えなど」についてとした。研修内容は、COVID-19感染拡大で保護者も子育てに困っていること、かつ、保育者自身もCOVID-19の感染に向き合いながらプレッシャーを感じていることを念頭に、保護者を支援すること、そして、保育者の意識を前向きにすることを研修の大きな目標とした。

表1 研修日時、回数、内容

|     |            |                      |
|-----|------------|----------------------|
| 第1回 | 2020年11月9日 | 保護者支援①               |
| 第2回 | 2020年12月7日 | 保護者支援②               |
| 第3回 | 2021年1月12日 | 2021年「保育」に取り組む意識     |
| 第4回 | 2021年2月15日 | 自分(保育士)の役割と他者への期待    |
| 第5回 | 2021年3月17日 | 保育者として2021年(新年度)に向けて |
| 第6回 | 2021年4月12日 | 保護者支援・家庭支援のあり方       |

### 3.3. 研修の対象施設と対象者

対象施設は付属園、県内保育施設(保育所7施設、幼保連携型認定こども園3施設)10施設(延べ数であり、開催回によって参加施設の変更あり。)であった。参加者で回答を得られたのは第1回13人、第2回14人、第3回16人、第4回10人、第5回11人、第6回9人で、合計延べ人数が73人、1回当たりの回答者(以下、「回答者」という。)は12.2人であった(表2参照)。なお、付属園以外の研修参加の保育施設の回答は代表、もしくは数名の回答であり、研修参加者は回答よりも多い。

また、回答者(以下、延べ人数)の保育者としての経験年数は、1年～5年が24人(32.9%)と最も

多く全体の3割を超えていた。次いで、16年～20年が17人(23.3%)、11年～15年が11人(15.1%)、21年～25年が9人(12.3%)、26年以上(9.6%)、6年～10年5人(6.8%)であった(表3参照)。

さらに、回答者の所属は保育園が68人(94.4%)、幼保連携型認定こども園が2名(2.8%)、その他(行政職含む)が3名(4.3%)であった(表4参照)。

表2 オンライン研修アンケート回答者数の推移

| 回数 | 回答者数(N) |
|----|---------|
| 1  | 13      |
| 2  | 14      |
| 3  | 16      |
| 4  | 10      |
| 5  | 11      |
| 6  | 9       |
| 合計 | 73      |
| 平均 | 12.2    |

表3 回答者の保育者としての経験年数

| 経験年数   | 人数(N) | 割合(%) |
|--------|-------|-------|
| 1～5年   | 24    | 32.9% |
| 16～20年 | 17    | 23.3% |
| 11～15年 | 11    | 15.1% |
| 21～25年 | 9     | 12.3% |
| 26年以上  | 7     | 9.6%  |
| 6～10年  | 5     | 6.8%  |

表4 回答者の所属施設

| 施設種別        | 人数(N) | 割合(%) |
|-------------|-------|-------|
| 保育園         | 68    | 94.4% |
| 幼保連携型認定こども園 | 2     | 2.8%  |
| その他         | 3     | 4.2%  |

※その他は行政職他である。

### 3.4. アンケート調査内容

研修終了後に毎回事後アンケートとしてgoogleフォームを利用した無記名のオンライン調査を実施した。質問内容は以下のとおりである。

- (1) 基本情報：所属組織(保育園・幼保連携型認定こども園・その他)、性別、保育者としての経験年数。以上は上記に記載済み。
- (2) 調査項目：以下に示す。
  - ① 研修内容の理解度(「理解できた・あまり理解できなかった・理解できなかった」の3段階評価)
  - ② 研修内容の理解度について具体的に回答してください。(自由記述)

- ③ 研修内容の満足度（「とても満足できた・満足できた・あまり満足できなかった・満足できなかった」の4段階評価）
- ④ 研修内容の満足度について具体的に回答してください。（自由記述）
- ⑤ オンライン研修のメリットについて（良かったこと、やりやすかったことなど）記入してください。（自由記述）
- ⑥ オンライン研修のデメリットについて（わかりにくかったこと、上手くいかなかったことなど）記入してください。（自由記述）
- 以上、6つの質問に対する回答を分析した。

## 4. 調査結果と考察

### 4.1. 「研修内容の理解度」について

オンライン研修における「研修内容の理解度」を「理解できた・あまり理解できなかった・理解でき

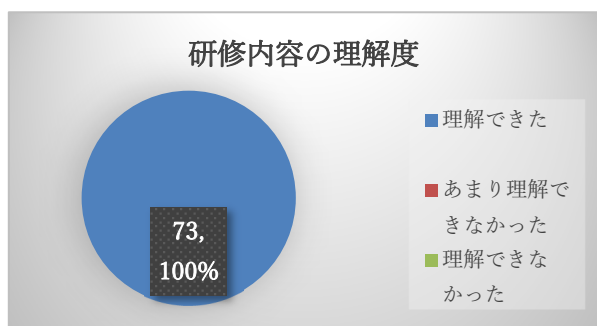


図1 研修内容の理解度

なかった」の3段階で評価してもらった。その結果、73人すべての回答者から理解できた、との非常に高い評価であった（図1参照）。

### 4.2. 「研修内容の理解度について具体的に回答してください。」について

研修内容の理解度について具体的な回答を求めた。具体的な記述内容を分析し3つのカテゴリーに分けることができた。1点目は、「研修内容の理解を表す表現」である。2点目は、「研修内容の進め方による理解」である。3点目は、「オンライン研修の有効性」である。以下に、回答内容の一部を示す（表5参照）。

これらの回答からも、理解度の高さを知ることができる。結果として、オンライン研修の理解度は対面研修とさほど開きがあるとはいえないのではないだろうか。ただし、理解度を高めるためには、研修の進め方にも配慮が必要であることもわかる。利用する資料（レジメ）や講師の話し方、表情なども理解度に影響を与えることも考えられる。

### 4.3. 「研修内容の満足度」について

研修内容の満足度について「とても満足できた・満足できた・あまり満足できなかった・満足できなかった」の4段階で評価してもらった。その結果、「とても満足できた」が46人（63.2%）、「満足できた」が27人（35.5%）、「あまり満足できなかった」1人（1.3%）であった。「とても満足できた・満足できた」を合わせると回答者の約99%が非常に高い評価であったといえる。

表5 研修内容の理解度の具体的回答の分析

| カテゴリー           | 回答内容の一部   |
|-----------------|---|
| 1. 研修内容の理解を表す表現 | 子育て支援や保護者との関わり大切さをあらためて感じました 保護者に寄り添い共感を示しながら 関わっていきたくと思いました。   |
|                 | 保護者対応についてより良い対応にするためには何を意識すればよいのか勉強になった。  |
|                 | コミュニケーション能力、技術を高め、身につけることが私達保育士に求められていること改めて学びました。  |
|                 | クレドという言葉を知りませんでしたが研修をとおして理解できました。   |
| 2. 研修の進め方による理解  | 保育理念や保育方針をよく理解し、具体的にどうしていくか、目標などもつこと  |
|                 | レジメに沿って丁寧に説明されるので分かりやすく、内容やメモもレジメに書き込めるので後で見直す時にも便利です。話し方や声のトーンも心地良くすーっと頭に入ってきます。                     |
|                 | どの内容も具体的で丁寧にお話し頂いたので、よく理解できました。   |
| 3. オンライン研修の有効性  | 対面研修と違い、気楽にみんなで参加できるのが利点だと思いました。  |
|                 | 対面研修ですと、周りに人がいるので気を抜けない緊張感がありますが、逆にオンラインだとリラックスできるという面があります。オンライン研修では研修を受ける人の意識によって理解への差が出やすいと感じています。 |
|                 | オンライン研修はどのようなところからでも誰もが研修を受けることができる良さはあると実感します。   |
|                 | 対面研修とさほどかわりません。   |

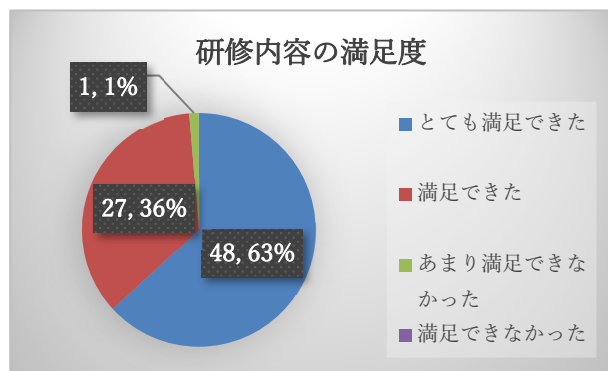


図2 研修内容の満足度

#### 4.4. 「研修内容の満足度について具体的に回答してください。（自由記述）」について

研修内容の満足度について具体的な回答を求めた。具体的な記述内容を分析し4つのカテゴリーに分けることができた。

1点目は、「研修内容の満足感」である。2点目は「研修時間の適切さ」である。3点目は「研修の事前準備」である。4点目は、「参加型研修」である。以下に回答内容の一部を示したい（表6参照）。

これらの回答から、オンライン研修の満足度を高

めるためには、1点目は、そもそもの「研修内容の充実」が図られること、かつ、保育者が現場で何を求め学びたいと思っているのかを知ることでもある要素であるといえる。

2点目は、「研修時間」である。保育現場における園内研修は子どもの午睡時間を利用したり、土曜日の午後、あるいは夕方や夜間に2時間程度の研修時間を設けたりしている<sup>5</sup>保育施設も多いと聞く。そのような中で、保育時間内（勤務時間内）に45分程度の時間を工面し集中して研修を実施することは、保育者も集中して参加でき満足度も高いといえる。

3点目は、「研修の事前準備」である。1週間程度前までに研修資料を送付し目を通してもらい、事前にどのような研修内容か、グループワーク（Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用）の場合は演習課題を事前に考えておくなど、保育者も研修内容を理解した上で参加してもらっている。このことも研修満足度を高める効果があるといえる。

4点目は、「参加型研修」である。オンライン研修でZoomなどのリアルタイム配信システムを利用する場合は、参加者が気軽に意見交換したり、質問し

表6 研修内容の満足度について具体的に回答してください。

| カテゴリー       | 回答内容の一部  |
|-------------|--|
| 1. 研修内容の満足感 | <p>再度共通認識を図ることができ、良かったと思います。研修後、今回の講義について職員と話すこともでき、良かったです。</p> <p>保護者との関わりと対応がわかりやすく、あらためて普段の関わりを見つめ直すことができました。私に不足しているところはどこかなど振り返る機会になりました。</p> <p>保護者の方と関わる時には褒めることを特に実践していきたい。保護者対応を学ぶことはこのような機会がないとなかなか得られないので大変ありがたいです。</p> <p>クレドや理念・方針の具現化、肯定形の言葉がけや断り方、丁寧な生活などどれも学びが多く、今後の当園の園内研修でも活用させて頂きたいと考えています。</p> <p>子どもが笑顔になるということが全てと感じます。とても分かりやすくお話して下さりありがとうございました。</p>  |
| 2. 研修時間     | <p>45分という比較的短い時間で集中して研修を受けることができ大変満足しています。</p> <p>45分という時間が長くなく短くなく集中でき、満足できました。</p> <p>時間が決まっていて、園内研修の開催の方法にも参考になりました。</p> <p>時間が45分間だったので長時間の研修と比べ、より集中して参加出来ました。ポイントも絞ってあったので、わかりやすくとても身になりました。</p>   |
| 3. 研修の事前準備  | <p>資料も前もって準備して下さり、ひとつひとつ確認しながら研修に参加出来ました。</p> <p>保育理念や保育方針にそった保育実践を行うことができているか自分の保育を振り返りました。いろいろな場面で課題も見つかり明日の保育につなげたいと思いました。今回の研修を通して、これから意識しながら、クレドカードを用いた自分自身の振り返りを行なっていきたいと思いました。</p> <p>内容についてはとても興味あるものでした。現場では多くの方が共感出来る内容だと思います。しかし、途中で退席することになり、最後まで参加できなかったことが残念でした。</p> <p>今、私の気持ちにとってもタイムリーな内容だったので、これから仕事するにあたって参考になりました</p> <p>同じ園の人と意見交換ができるので身近な人と共通のコミュニケーションがとれること。</p> <p>人との会話など伝えるのに、言葉一つで優しく出来るんだと思うと気持ちゆっくりなり満足しました。</p> <p>発言することで、参加した満足感が得られました。</p> |
| 4. 参加型研修    | <p>他者の考えなど情報交換を活発に行えとまた深い学びにつながると思います。</p> <p>オンラインですが、先生と会話ができたことで参加出来た満足感がありました。</p> <p>役割（責任・意識的）と支えあう・助け合うバランスのとれた組織になるためのリーダー・マネージャーの役割りなどもお聞きしたかったです。</p>  |

たりすることも可能である。また、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使えばグループワークも実施できる。この参加型研修にすることで参加者の満足度は向上する<sup>6</sup>ことが期待できる。

#### 4.5. 「オンライン研修のメリットについて（良かったこと、やりやすかったことなど）記入してください。（自由記述）」について

オンライン研修のメリットについて具体的な回答を求めた。記述内容を分析し4つのカテゴリーに分けることができた。1点目は、「参加場所の選択が可能」である。2点目は、「他者との時間・内容の共有」である。3点目は、「参加の制限が少ない」である。4点目は、「参加の柔軟性と時間の有効活用」である。以下に回答内容の一部を示したい（表7参照）。

以下に示した回答から、オンライン研修のメリットは、1点目は、「場所の選択が可能」であるという

点である。保育施設だけでなく、自宅やその他の場所でも研修に参加できることは、参加の制限も少なくなり気軽に柔軟性のある研修参加ができることで保育者の研修参加のハードルも下がる<sup>7</sup>といえる。

2点目は、「他者との時間・内容を共有」することである。他者（園内の同僚保育者や他園の保育者）と研修内容を振り返ったり、互いに共通理解したりすることが可能であることがオンライン研修のメリットとなり得る。また、同じ保育施設内で外部研修をオンライン研修で複数名が参加することで、研修内容の共有がスムーズにできることも期待できる。対面研修だと、人員の問題で1つの研修に多くの保育者を派遣することは難しい。しかし、オンライン研修であれば、出来る限り参加者を増やすことも可能である。

3点目は、「参加の制限が少ない」ことである。まず、移動（会場までの）がないこと、研修参加中も

表7 オンライン研修のメリットについて

| カテゴリー             | 回答内容の一部  |
|-------------------|--|
| 1. 参加場所の選択が可能     | 園外へ移動せず受講できるところです。   |
|                   | 研修会場に行かず手軽に質の高い研修を受けること。   |
|                   | どんな場所でも、参加できるところ。  |
|                   | 保育室で講義を受けることができ、参加しやすかった。  |
|                   | 互いが離れた場所においても学び合えることが良いと思いました。自園で参加できること。  |
|                   | 出かけなくて済むので助かります。   |
|                   | 職場にいながらにして受講ができるため、受講しやすかった。   |
| 2. 他者との時間・内容の共有   | 各々の部屋で講義を聞けるのでよかった。  |
|                   | 参加できなかった職員も個別で同じ講義を受けることができるので良いと思う。   |
|                   | 他園の先生方と時間が共有できて、緊張感もあり新鮮でした。   |
|                   | 他の園の先生方がおられましたので、同じく学んでいる方がいると思うとモチベーションが上がります。  |
|                   | 他園の先生方と時間が共有できて、緊張感もあり新鮮でした。   |
|                   | 定時に始まる。集中できた。  |
|                   | 互いが離れた場所においても学び合えることが良いと思いました。   |
| 3. 参加の制限が少ない      | 場所の移動がなく園内でできることはとてもありがたいです。   |
|                   | オンライン研修だったため5名参加できました。別会場など場所が遠いと参加は1～2名だったと思います。  |
|                   | オンライン講義はみなさんをとても身近に感じます。   |
|                   | コロナ禍でも予定通り研修を受けることが出来ることです。  |
|                   | また、〇〇市内での研修となると、移動時間を含め一日出張となり職員配置等の問題などもあり、1、2名での参加しかできないところオンラインであると複数人受けられ、学びの場が増えたように思います。 |
|                   | チャットが使えるので発言が苦手な方も自分の意見を言いやすい。   |
|                   | どこにいても、気軽に参加できる場所。会場までの移動がないところ。   |
| 4. 参加の柔軟性と時間の有効活用 | 45分の時間の中で、しっかりと伝えてもらって、また落ち着いて研修もでき、よかったと思いました。  |
|                   | 園外へ移動せず受講できるところです。   |
|                   | 仕事の時間の空いている時間など工夫して参加できる。遠くにいかなくてもいい。  |
|                   | 自分にあった環境で受けれること。   |
|                   | 仕事の途中で講義を受けることができるので身近な環境です。   |
|                   | 気軽に参加できるところ。   |



チャットなどで気軽に質問できる、コロナ禍でも参加制限がないこと、園内で仕事参加が可能であること（上記でも述べた、園外でも自宅でも受講可能など）など、研修参加による制限は極端に少なくなる。例えば、参加者数も制限することなく受講可能であり、場面設定によっては一緒に同じ研修に参加し他者との情報共有も可能である。これらは、これまでの対面研修のデメリットを解消するほどのメリットであるといえる。

4点目は、「参加の柔軟性と時間の有効活用」である。仕事の空き時間の利用、研修時間を工夫して設ける、自分に合った環境で参加が可能など、気軽に研修に参加できるのはオンライン研修のメリットと考えられる。時間の有効活用については、保育施設が抱える多忙さの現状から研修に時間が割けないなどの問題も解決できる糸口となるかもしれない。

#### 4.6. 「オンライン講義のデメリットについて（良かったこと、やりやすかったことなど）記入してください。（自由記述）」について

オンライン研修のデメリットについて具体的な回答を求めた。具体的な記述内容を分析し5つのカテゴリーに分けることができた。1点目は、「機器や設備の課題」である。2点目は、「PC等の操作スキルの課題」である。3点目は、「受講環境の課題」である。4点目は、「通信環境の課題」である。5点目は、「研修参加の意欲」である。以下に回答内容の一部を示したい（表8参照）。

1点目の「機器や設備の課題」である。まず、PCやスマホなどの機器や設備に関する問題や課題が多い。PCのマイクが使えない、カメラが仕えない、1人1台の機器の使用ができないなど、まずは設備投資も必要であることがわかる。

2点目に、「PC等の操作スキルの課題」である。PCの操作自体が苦手、Zoomなどのソフトウェア（以下、「ソフト」という。）の扱いができない、などが挙げられている。オンライン研修の実施にあたっては、事前にPC操作やZoomなどソフトの使い方の研修も必要である。ただし、保育施設内にはPC操作やZoomなどのソフトの使い方に長けた保育者もいることから、保育施設内での研修体制を構築することも可能であろう。

3点目は、「受講環境の課題」である。勤務時間中のオンライン研修参加の場合は、他の仕事が入ったり、研修を受けている部屋に他の保育者などが入ることによって、研修が中断されるなどの指摘もある。この点は、まだ不慣れによるものでもあるため、今後、オンライン研修が一般化することで、受講環境

表8 オンライン研修のデメリットについて

| カテゴリー           | 回答内容の一部   |
|-----------------|---|
| 1. 機器や設備の課題     | 受講環境や設備が受講者によって異なるので、音量等の調整が難しいと感じました。声が聞こえてるのが気になる。画面が真っ黒だったりすると、どんな人がいるのか分からず、不安。 |
|                 | カメラがないのと音量が小さかったので改善できるように園で話し合っていきたいとします。  |
|                 | 1人1台のパソコンを使うわけではないので、話し合いなどは難しいと感じる。パソコン操作が難しいところ。                                  |
| 2. PC等の操作スキルの課題 | パソコンが上手く使えないので、さあ一人と言われると出来ません。パソコンの扱いに慣れる必要があると思いました。                              |
|                 | PCが苦手な方は、参加方法が分からない。  |
|                 | 仕事をしながら研修を受ける時もあるので集中ができないこともあります。  |
| 3. 受講環境の課題      | 講師が話している時に思いがけない雑音が入り講師の話が聞き取れない場合がある   |
|                 | 園にすることで、オンライン研修を受けているからと伝えていても、途中で職員の出入りがある   |
|                 | カメラがないのと音量が小さかったので改善できるように園で話し合っていきたいとします。  |
| 4. 通信環境の課題      | 気軽に参加出来る反面、途中退席が生じてしまうこともありました。学ぶ受講者のマナーが問われると思いました。                                |
|                 | 音声繋がらなかったり、参加者の意見交換にタイムラグが生じてしまう事です。  |
|                 | 気軽に参加出来る反面、途中退席が生じてしまうこともありました。学ぶ受講者のマナーが問われると思いました。                                |

はよい方向に変化できると思う。

4点目は、「通信環境の課題」である。この課題は多くはなかったが、保育施設内のインターネット通信環境（有線LAN、Wireless Fidelity（以下、「Wi-Fi」という。）など）の状態によっては、オンライン研修に参加する上でストレスになる。オンライン研修を本格的に導入するためには、保育施設内のインターネット通信環境を整えることは必須といえる。

5点目は、「研修参加の意欲」である。この点は、筆者が以前からさまざまな研修の機会に研修参加者に伝えてきたことでもある。それは、対面研修であろうがオンライン研修であろうが、研修参加者の意欲が最も大切である。例えば、保育施設から強制的に研修参加を命令された場合、あるいは、半強制的に自腹での研修参加を勧められた場合など、その研修に対する意欲は低いと思う。結果として、研修による知識や技術の向上にはつながりにくい。つまり、専門性の向上を目指し参加する研修であっても参加者の意欲が伴わなければ意味がないのである。

以上、オンライン研修のデメリットを挙げてきた。1点目から4点目は機材や環境、学ぶことで解決することも可能である。しかし、5点目は、保育施設の働き方や人間関係など複数の要因が絡み合っていることから大きな課題であるといえる。

## 5. まとめ

本研究の目的は、「保育施設におけるオンライン研修の有効性を明らかにすること」である。また、同時にオンライン研修の課題を明らかにして課題解決案を提案することである。

保育界にあっては、2020年度上半期以降にはオンライン（オンデマンド含む）研修が開催<sup>8</sup>されるようになってきている。しかし、保育施設における保育者へのオンライン研修の有効性に関する研究はほとんど見られないのが現状である。保育士養成校（四年制大学、短期大学、専門学校を含む）のオンライン授業（講義・演習、実習など）の実施報告や授業効果などについては、数多く研究報告がされている。

今回の調査ではオンライン研修の有効性である「学習の効果」は上述の理解度、満足度の高さから「効果がある」といえる。このように、オンライン研修は一定の効果が期待できることは理解できる。

オンライン研修のメリットにも挙げられているように、学習の場所が自分で選べること、研修場所への移動の制約がないこと、研修参加者の状況に合わせて柔軟に学習できること、かつ、対面でなくても他者との交流ができること、などメリットは多い。

しかし、オンライン研修の有効性はあると考えられるが、実際にオンライン研修を実行するとデメリットもあることがわかる。オンライン研修のデメリットの回答からもわかるように、機器、設備などのハード面の未整備やPCやZoomなどを使用するスキルなどソフト面について知識や技術の未習熟など課題も多く、保育施設や保育者にはより一層の施設整備<sup>9</sup>や学習が必要である。この点は、研修の中身である保育の質の向上の前の問題であり、オンライン研修における課題であろう。

本研究を踏まえて、オンライン研修の課題解決に向けて3点提案したい。

1点目は、「気軽に参加できるオンライン研修」である。対面研修の場合、会場までの移動、宿泊、服装（化粧なども）、受講後の研修復命など、結構ハードルが高く、気軽に研修に参加できているとはいえない。保育界の研修が、気軽に何時でもどこでも、学びたい時に学べる環境になることで保育者の多くが学ぶ機会が増えるのではないだろうか。例えば、リアルタイムにZoomなどを用いたオンライン研修だけでなく、オンデマンド動画配信（YouTubeなども含む）<sup>10</sup>によるオンライン研修なども有効かつ実効性があると考ええる。

2点目は、「保育者が研修を受けたいと思える保育施設的环境作り」である。オンライン研修のデメリットにもあるように、研修参加の意欲は普段の職場環境<sup>11</sup>が大きく影響すると考える。新人からベテラン保育者、管理者間の互いの立場が尊重され、1人1人の個人の尊厳が守られること、かつ、意思の疎通ができ、適切な意見交換ができるなど、より働きやすい職場環境を作ることによって研修参加（自分自身の保育の質の向上に対する意識も含めて）に対する意欲は高まると考える。

3点目は、「保育施設のオンライン研修の環境整備」である。オンライン研修のデメリットにもあるように、オンライン研修はPCやスマホ、タブレット、有線LANやWi-Fiの機器、設備が不可欠である。さらに、PCやZoomなどの使い方が苦手な場合は、オンライン研修から遠ざかることも考えられるので、PC



やZoomの使い方などの教育も必要である。

保育施設や保育者を対象としたオンライン研修は始まったばかりである。オンライン研修を否定したり効果を疑ったりすることは簡単である。しかし、現在のCOVID-19感染状況を踏まえると、これからすぐに、以前のような社会に戻るとは考えにくい。つまり、いまできること、やらなければならないことをそれぞれの保育施設で議論し、各保育施設に親和性のある研修のあり方を考えていくことも必要であろう。

## 注

- 1 本研究では、ビデオ会議（遠隔会議）システムZoomを利用してオンライン研修を実施している。
- 2 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長「保育士等キャリアアップ研修の実施について」平成29年4月1日では、「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」が示されている。実施主体は、都道府県又は都道府県知事の指定した研修実施機関となっており、その内容は専門分野別研修、マネジメント研修及び保育実践研修とし、それぞれの研修の対象者を定めている。詳しくは「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」を参照されたし。
- 3 2021年5月現在もCOVID-19の変異種によって北海道、東京都、大阪府、兵庫県、福岡県などで「非常事態宣言」が発令され、また、沖縄県、埼玉県、千葉県、熊本県などで「まん延防止等重点措置」が発令（5月16日に熊本県にまん延防止等重点措置が発令）され、対面による保育者の教育・研修の機会は2021年度も減少している。
- 4 2020年度下半期から2021年度は保育士等キャリアアップ研修も多くの都道府県でオンライン研修（eラーニング含む）が実施されるようになっている。
- 5 筆者は毎年多くの保育施設に園内研修講師として出向している。その中で多いのが夜間、土曜日午後、平日の1時から3時の間などである。
- 6 筆者が本務校で実施する、オンライン授業においてもZoomを用いて授業を展開しブレイクアウトルームでグループワークを実施、その後、グループ発表を行うなど、参加型の授業を実施している。その後、googleフォームで授業満足度、理解度を測ると参加型の授業の方が満足度、理解度ともに高い評価であった。
- 7 筆者が顧問を務める付属保育園でも外部研修への参加のハードルは低くない。予算面、人員面、参加者の公平性など、気軽に何時でも研修に参加できているとはいいいがたい。
- 8 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長「保育士等キャリアアップ研修の実施について」平成29年4月1日では、「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」が示されている。実施主体は、都道府県又は都道府県知事の指定した研修実施機関となっており、その内容は専門分野別研修、マネジメント研修及び保育実践研修とし、それぞれの研修の対象者を定めている。詳しくは「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」を参照されたし。
- 9 オンライン学習の施設整備については、オンライン授業など実施している大学や小中高校など、多くの教育機関でも指摘されているところである。特にwi-fi環境やPCやタブレットの不足などオンライン学習の基盤整備はこれからであろう。
- 10 筆者は保育士等キャリアアップ研修や私立保育園連盟主催の期間及び対象者を限定した研修動画のYouTube配信によるオンライン研修も実施している。そのアンケート調査の結果をみても理解度、満足度ともに非常に高い評価であった。自由記述では気軽さに関する記述も多くあり、この点は今後も動画による研修内容の精度を高めることでより効果のある研修になるのではないかと考えている。
- 11 保育施設の職場環境は、処遇としての給与面だけでなく、上司や部下、同僚、保護者などとの人間関係や適切な休憩の取得やサービス残業を無くすなど、働きやすい職場作りが極めて重要である。